

# 女性スポーツ黎明期

## —偉大な先駆者、人見絹枝と前畑秀子—

平成8年6月25日～7月19日

今日、スポーツはたいへん盛んで女性、男性を問わず多くの人々がスポーツを楽しんでいます。しかし、女性が本格的にスポーツに参加しはじめたのは、ほんの 7、80 年前に過ぎず、その後も多くの議論を呼びました。

今回の展示では主に日本における女性スポーツの黎明期の状況とともに女性スポーツの普及、発展に努めた先駆者の代表として人見絹枝と前畑秀子についてその足跡をたどってみたいと思います。

### 展示資料一覧

<>内は当館請求記号

#### [女性スポーツのあけぼのと当時の議論]

#### 1 別冊歴史読本 第15号 1980

新人物往来社

<Z8-1336>

#### 2 近代陸上競技史(中巻)

山本邦夫著

東京 道和書院 1974

<FS33-40>

#### 3 三石 「躍動の女性(女子の競技会から)」

アスレチックス 第1巻第4号 1922

大日本体育協会

<雑35-74>

#### 4 スポーツ八十年史

- 日本体育協会編 <780.21-N689s>  
東京 日本体育協会 1958
- 5 女子競技**  
三橋義雄著 <528-118>  
東京 廣文堂書店 1924
- 6 婦人公論大学・スポーツ篇**  
東京 中央公論社 1931 <609-197>
- 7 日本女子オリンピック年鑑**  
木下武之助著 <528-43>  
大阪 中央運動社 1924
- 8 大阪毎日新聞**  
1924(大正13)年6月16日7面 <YB-7>
- 9 女子の運動競技**  
寺田瑛著 <516-90>  
東京 日本評論社出版部 1923
- 10 輝け！女子マラソン**  
高橋進著 <FS33-177>  
東京 碩文社 1983
- [偉大な先駆者 人見絹枝・前畑秀子]
- 11 別冊 1億人の昭和史 昭和スポーツ史 オリンピック 80年**  
毎日新聞社編 <FS22-30>  
東京 毎日新聞社 1976
- 12 炎のスプリンター 人見絹枝自伝**  
人見絹枝〔著〕 織田幹雄, 戸田純編著 <GK52-88>  
岡山 山陽新聞社出版局 1983
- 13 女子体育基本文献集 第11巻**
-

- 「女子の運動競技」人見絹枝〔著〕 <FS11-E136>  
 監修：片岡康子ほか 複製  
 東京 大空社 1995
- 14 黒田乙吉「人見絹枝嬢の臨終と其前後」 <雑51-41>  
 婦人サロン 第3巻第10号 1931  
 文芸春秋社
- 15 スパイクの跡・ゴールに入る <FS33-E265>  
 人見絹枝著 複製  
 東京 大空社 1994
- 16 燃え尽きたランナー人見絹枝の生涯 <FS33-140>  
 小原敏彦著  
 東京 大和書房 1981
- 17 山陽新報 <YB-34>  
 1926(大正15)年9月30日5面
- 18 前畑は二度がんばりました <GK56-68>  
 兵藤秀子著  
 東京 ごま書房 1985
- 19 近代オリンピック写真史 <780.6-Ki234>  
 オリンピック写真史刊行会編  
 東京 同胞之会出版部 1964
- 20 オリンピックの政治学 <FS27-E24>  
 池井優著  
 東京 丸善 1992
- 21 オリンピック大会報告書 第11回 <648-69>  
 大日本体育協会編  
 東京 大日本体育協会 1937

## 解説

### [女性スポーツのあけぼのと当時の議論]

明治時代、女性のスポーツ参加の機会は限られたものでしたが、大正10年代、各種競技大会の開催により一挙に花開きました。それとともに女性がスポーツに参加することに対する広範な議論が起こりはじめました。

- 1 明治期の運動会 女性のスポーツ参加の原初的形態といえよう
- 2 日本で初の女子競技大会(大正11<1922>年) 185名が参加した
- 3 2の大会の様子を通して当時の風潮がうかがえる
- 7 (大正13<1924>年から第10回大会まで続いた)この大会は陸上、水泳、野球、テニスなどの種目を2日間で消化するものであり、参加者は関西を中心に114団体1800人を数えた
- 8 7の大会は新聞でも大きくとりあげられた
- 9 この文章は大正11<1922>年、「報知新聞」に掲載された教育者の見解を集めたものである
- 10 世界的には1920年代、オリンピック陸上競技に女性を参加させるか否かでIOC会長(クーベルタン)と女性参加賛成論者(ミリア夫人)の間に激論が交わされた

### [偉大な先駆者 人見絹枝・前畑秀子]

戦前、人見絹枝・前畑秀子はそれぞれ陸上・水泳の分野で大変活躍し、日本女性で数少ないオリンピックメダリストとなりました。二人がその後の女性スポーツ界に与えた影響ははかりしれません。

- 11 人見は世界トップクラスの選手であっただけではなく、女性スポーツの発展に力を注ぎ、数冊の啓蒙書を残している
- 12 第9回オリンピック(アムステルダム大会) 800メートル決勝での力走
- 13 19歳ではじめて出版した「最新女子陸上競技法」を収録

